

次号予告

特集 診療報酬

リハビリテーション関係診療報酬点数の問題点……厚生団 大村 潤四郎
一般病院におけるリハビリテーションの

経営的問題点……代々木病院 二木 立
診療報酬に対する問題点

(1) 理学療法士の立場から……都養育院付属病院 松村 秩

(2) 作業療法士の立場から……高茶屋病院 大橋 博

座談会

「リハビリテーション診療報酬をめぐって」

大村潤四郎・三島 博信・小池 文英・佐々木重雄

長谷川 元・谷島 朝生・(司会)上田 敏

とびら 障害体験……社会医学技術学院 小川 恵子

講座 運動生理学

5. 運動と消化・吸収・排泄……東海大学 中野 昭一・他

第6回「理学療法と作業療法」賞・懸賞論文

準入賞

乳房切断術後の理学療法の効果

(肩関節可動域を中心にして)……金沢大学医療技術短大 辛島 修二・他

プロGRESS 運動負荷試験……筑波大学 紅 露 恒 男

リハビリテーション・インフォメーション

<京都府>……京都大学付属病院 宮風 隆夫・他

あんてな 精神障害者福祉立法について……国立武蔵療養所 樋田 精一

対談 米国作業療法士協会長に聞く……M・D・ハイタワー・ヴァンダム

(聞き手)矢谷 令子

編集後記

色ページのリハビリテーション・インフォメーションもほぼ全国を巡り、三重・鳥取両県を迎えた。読んでいと各地域で苦勞されている様子が良く解る。特に研修については努力が払われ、小さい所帯の所ではPT・OT間の交流や相互協力体制が見られ、双子兄弟として育った仲の良さを物語っている。

さて今月号の特集「上肢切断」は、単に医学的リハビリテーションからのアプローチでは解決し得ない側面を持っていると言えよう。今回は広い視野に立って、先天性疾患では「サリドマイド胎芽症児のその後」について大瀧氏に、積極的な義手装着訓練として「仮義手システムによる装着訓練」を谷合氏に、一般生活で義手使用上最もネックとなる「上肢義手の使用状況と故障について」経験豊富な鋤園氏にそれぞれ筆を執っていただいた。さらに我々の手に入ることになって10数年になるさまざまな電

動義手について、その後どうなったか症例をとおして、都補装具研から久保氏、中央鉄道病院からは石森氏に、それぞれの経験をお書きいただいた。

最近のホットな話題「足で運転できる自動車」を中村氏に、いよいよ57年4月にリハビリテーションチームスタッフの一員としてPT・OTに次ぐ義肢装具適合士のための養成機関が発足するが、これに関して「義肢装具適合士教育制度の最近の動向」を、加倉井先生に紹介していただき、さらに残されている問題についても触れられ、多彩な内容が盛り込まれた特集となった。

国際障害者年もあとわずかの感じがしないでもないが、われわれ関係者にとって、正に千載一遇のチャンス、いつも隅に立っているのではなく、真中に出てガンバッテほしい。幸いにも日本の年度は来年3月一杯までであと半年弱はあると思って……………。

(大喜多 潤)

<編集顧問>

天 児 民 和

九州労災病院名誉院長

五味 重 春

埼玉県生活福祉部

砂 原 茂 一

国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一

東京大学教授・整形外科

水 野 祥太郎

川崎リハビリ学院長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏

東大リハビリ部

荻 島 秀 男

リハビリテーションペ

イン(痛み)クリニック

くわらび診療所

大喜多 潤

兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子

都心身障害者センター

富 岡 詔 子

山梨日下部病院

奈 良 勲

金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子

筑波大学

松 村 秩

都養育院リハビリ部

<編集同人>

安 達 克 己

池 田 俊 雄

伊 東 元 夫

宇都宮 初 夫

大 丸 幸 翼

金 子 矩 子

鎌 倉 克 昌

紀 伊 信 子

木 村 治 夫

駒 沢 馨 明

佐 藤 智 明

嶋 田 明 子

鈴 木 昌 家

関 橋 正 明

高 橋 久 隆

中 屋 元 隆

橋 沢 しげ子

藤 矢 令 子

山 下 隆 昭

(担当 細田・西塚)